

# 木育から「子どもを真ん中」においたまちづくり —大人の願いが詰まったNew教育—

岐阜県立森林文化アカデミー教授 ● 松井 勲尚

地域活性化センターでは、地方創生の担い手となる人材の養成を目的としたワークショップ「地方創生実践塾」を実施している。10月21日(水)～23日(金)に岐阜県美濃市で開催された実践塾の内容について、主任講師の松井勲尚氏にご報告いただいた。

## 今回の実践塾の趣旨

「資源」とは何か？地域資源を活かすとはどういうことか？自分自身へ問いかけ続ける11カ月間であつた。

昨年11月に市の部署の担当者として6人で始まったミーティングが、開催日までには総勢22人となり、全体会議は11回を数えた。全員が今回の講師という位置付けである。

有識者が発信している地方創生に関する様々なレポートに欠かせないテーマとして「人口減少」がある。それはネガティブな情報として取り扱われるが、果たして鶴呑みにして良いのか？地方が生き残りをかけての人の取り合いなのか？

「違う角度から見れば、楽観的に

とらえることもできる」—これはダライ・ラマ14世の言葉であるが、研修概要説明ではプレゼンの内容に盛り込むことによって、参加者へその疑問を投げかけた。

岐阜県美濃市にある、岐阜県立森林文化アカデミーを会場・拠点として爽やかな秋晴れの中、3日間の実践塾が関東はもとより遠くは隠岐対馬等から31人の受講者が参加して開催された。美濃市は森林率80パーセント。濃尾平野の最北端であり、森林が始まる最南端の位置にある人口約2万2000人のまちだ。美濃市は、子育てに手厚いまちである。しかし、それぞれの団体がばらばらに動いていて、同じ思いで活動しているにもかかわらず、つながっていない

ことが課題であると感じていた。そこで、この実践塾開催を「子どもを真ん中」に置くことで、市民がつながりを感じるためのきっかけと捉え直し、実践塾を行うまでのプロセスを大切に進めることとした。

今回の目玉は、そのプロセスの中から生まれた「放課後ランド」構想である。以前は、学校も家庭も介入しない、子どもだけの遊びの時間が「放課後」という時間ではなかっただろう。しかし、現在はそれぞれの事情や社会の変化により、放課後という時間があまり重要視されていない。放課後には異年齢の子どもたちの社会があつたが、今はその交流の場が少ない。途切れてしまった異年齢交流からの学びや、子どもの「やりたい」という思いを具現化することを「放課後ランド」の目的とした。

この企画は、美濃市内の子どもの育成に関わる団体の取り組みを一齐に行い、多くの子どもたちに色々な体験、交流をしてみらうものである。賛同者を増やしながらミーティングを重ねていき、実験的に7月に4日間のスケジュールで開催したところである。

さて、ここで実践塾3日間の流れを記す。「すべての時間を美濃市民として気持ちよく過ごす」参加者の皆さんがそんな意識で向かえるよう環境整備に尽力した。

**1日目** 研修概要説明↓  
基調講演↓14事業プレゼンテーション↓意見交換会①

初日、主任講師の松井が、資源をみる視点の提供を行った。続いて、美濃市「放課後ランド」実行委員会委員の吉田理恵氏と高橋定佑氏が、美濃市のフィールドワークプラン及び美濃市の概要説明を行った。基調講演として「生きる力の強い子を育てる」の著者である天外伺朗氏による講義と密度の濃い質疑応答を行った。「人を変えようと思ったとたん、ブレーキがかかるのがコントロール願望。変わることができるのは自分自身である」との話が、まちづくりにも当てはまるのではないかと感じ、心に残った。最後に、美濃の人的資源を共有するため14の事業についてプレゼンテーションを行った。続く意見交換会でも重要な人的資源や文化を知って頂く位置づけとし、美濃の伝統的な「にわか」の実演等、披露してもらった。

**2日目** フィールドワーク↓  
放課後ランド体験↓ワークショップ↓意見交換会②

まずは、実験構想「放課後ランド」について県立森林文化アカデミーの萩原ナバ裕准教授が報告した。次にフィールドワークとして、市内の自然資源と文化資源を8コースから



「放課後ランド」体験の様子

### 3日目 グループワーク（企画書作成）↓発表

選択し体感してもらった。極力自身の足で歩くよう、また、運営スタッフがアテンドしながら交流できるよう、小人数制を取った。午後は「放課後ランド」を疑似体験。目指す姿の空間を体感して頂いた。ここまでインプットの作業である。最後にワールドカフェにてアウトプット。続きは夜のうだつの上がる町並み伝建地区にて、あかりアートも楽しんで頂きながら、「放課後ランド」実行委員会でもてなし企画「ちよい飲みプラン」で交流を深めた。このもてなし企画は、食べ歩き飲み歩きして様々な美濃市内の飲食店を楽しむイベント。実行委員が尽力し、町並み内の飲食店の協力を得て実現した企画である。

#### 地方創生実践塾（岐阜県美濃市）の概要

##### 第1日目 10月21日（水）

プログラム①研修概要説明・課題提起

主任講師：松井 勅尚氏（岐阜県立森林文化アカデミー教授）

プログラム②基調講演「子ども・教育と地方創生」

特別講師：天外 伺朗氏

プログラム③「フィールドワーク&放課後ランド」プレゼンテーション

講師：美濃市「放課後ランド」実行委員会

プログラム④意見交換会①

主任講師：松井 勅尚氏

##### 第2日目 10月22日（木）

プログラム⑤美濃市「放課後ランド」構想説明

講師：萩原 ナバ 裕作氏（岐阜県立森林文化アカデミー准教授）

プログラム⑥フィールドワーク

講師：美濃市「放課後ランド」実行委員会

プログラム⑦「放課後ランド」体験

講師：美濃市「放課後ランド」実行委員会

プログラム⑧ワークショップ（1）

主任講師：松井 勅尚氏

講師：美濃市「放課後ランド」実行委員会

プログラム⑨意見交換会②

##### 第3日目 10月23日（金）

プログラム⑩ワークショップ（2）・まとめ

主任講師：松井 勅尚氏

講師：美濃市「放課後ランド」実行委員会

#### 講師紹介

美濃市「放課後ランド」実行委員会

実行委員長 雲山 晃成氏

【みのプレーパークの会】【野外自主保育「森のだんごむし」】萩原 ナバ 裕作氏

【みの木育寺子屋】【MOTTAINAI工房】松井 勅尚氏

【美濃・禅のつどい】雲山 晃成氏 高橋 定佑氏 荒田 章観氏

【NPO 法人四つ葉のこず】高橋 貴子氏 古田 真由美氏 下村 理恵子氏

【夢かなうまち☆うだつカーニバルアウトリーチ企画】古田 大地氏

【岐阜県立武義高等学校書道部】古田 七江氏

【子育て支援もみじっこ】鈴木 美智子氏 吉田 理恵氏

【NPO 法人グリーンウッドワーク協会】小野 敦氏

【NPO 法人グリーンウッドワーク協会・竹部会】鬼頭 伸一氏

【清流長良川リバーダイビングリゾートダイビングスクールTEAMAIR】深和 英生氏

【美濃市民間保育園】野倉 照子氏（下牧保育園）佐藤 よしみ氏（牧谷保育園）

雲山 晃成氏（美濃保育園）

最終日は、美濃の資源を活かす企画を立ち上げるといふ想定でいくつかのテーマをピックアップし、その企画を「したい」人を募り、グループワークを行った。チームごとに発表を目指し、やりたい企画を協力して具体化する時間であった。

ワーク中「美濃市の宝は…」という声があちこちから聴かれ、美濃のために、という思いで真剣に考える時間となり、とてもワクワクする企画が上がった。参加者の皆さんが、本当に美濃市民になったつもりで、この町を良くするためのプランを真

剣に考えて下さったことに、心から感謝したい。

#### 資源とは人の視点

すべての事物に対する見方、考え方を捉え直し、「中庸」を見据えた多角的な視点で再編集する提案からスタートした実践塾であった。また「資源とは人の視点」であること、それを「見える化」するためにはスキルが必要であることを共有した。「岐阜県美濃市では大変お世話になりました。：本当に感謝の二文字しか思い浮かびません。ありがとうございます

ございました。楽しすぎて美濃のファンになりました」。

今思うことは、小さくても人口が少なくても、「優しさや思いやりに包まれた空間」こそが地方創生につながる。ファンになり、結果として、住みたいまちになる。送られて来た参加者のメールを読み、そんなことを思った。

改めて、すべての大人が経験した「子ども」を真ん中に置き、明日につなげたいと思う。